



ASA FirePOWER モジュール ソフトウェア の更新

シスコでは、ルールアップデート、地理位置情報データベース (GeoDB) の更新、脆弱性データベース (VDB) の更新だけでなく、ASA FirePOWER モジュールソフトウェア本体のメジャーおよびマイナーな更新など、さまざまなタイプの更新を電子的に配布しています。



注意 このセクションでは、ASA FirePOWER モジュールの更新に関する全般的な情報について説明します。VDB、GeoDB、侵入ルールを含め、更新を実行する前に、更新に付随しているリリースノートまたはアドバイザリテキストを**必ず**お読みください。リリースノートには、前提条件、警告、および特定のインストールとアンインストールの手順など、重要な情報が記載されています。

リリースノートまたはアドバイザリテキストに特に記載されていない限り、更新しても設定は変更されず、設定はそのまま保持されます。

- [更新のタイプについて \(1 ページ\)](#)
- [ソフトウェアアップデートの実行 \(2 ページ\)](#)
- [ソフトウェアアップデートのアンインストール \(8 ページ\)](#)
- [脆弱性データベースの更新 \(9 ページ\)](#)
- [ルール更新とローカルルールファイルのインポート \(10 ページ\)](#)

更新のタイプについて

ライセンス：任意

シスコでは、侵入ルールの更新や VDB の更新だけでなく、ASA FirePOWER モジュールソフトウェア本体のメジャーおよびマイナーな更新など、さまざまなタイプの更新を電子的に配布しています。

次の表に、シスコが提供している更新のタイプの説明を示します。ほとんどのタイプの更新では、ダウンロードとインストールをスケジュールすることができます。[タスクのスケジューリング](#)および[再帰的なルール更新の使用 \(15 ページ\)](#)を参照してください。

表 1: ASA FirePOWER モジュールの更新タイプ

更新のタイプ	説明	スケジュール	アンインストール
パッチ	パッチには、限定された範囲の修正が含まれています（また通常は、5.4.0.1 のようにバージョン番号の 4 桁目に変更されます）。	あり	あり
機能の更新	機能の更新はパッチよりも包括的であり、通常は新しい機能が含まれています（また通常は、5.4.1 のようにバージョン番号の 3 桁目に変更されます）。	あり	あり
メジャーな更新（メジャーおよびマイナーバージョンのリリース）	メジャーな更新（アップグレードと呼ばれることもある）には新しい機能が含まれており、大規模な変更が含まれることがあります（通常は、5.3 や 5.4 のようにバージョン番号の最初の桁または 2 桁目に変更されます）。	いいえ (No)	いいえ (No)
VDB	VDB の更新は、ホストが影響を受ける可能性がある既知の脆弱性のデータベースに影響します。	はい	いいえ (No)
侵入ルール	侵入ルールを更新すると、更新された新しい侵入ルールおよびプリプロセッサルール、既存のルールに対して変更された状態、および変更されたデフォルトの侵入ポリシーの設定が提供されます。ルールの更新では、ルールが削除されたり、新しいルールカテゴリとデフォルトの変数が提供されたり、デフォルトの変数値が変更されたりすることもあります。	はい	いいえ (No)
地理情報データベース (GeoDB)	GeoDB の更新により、物理的な場所や接続タイプなど、検出されたルート可能な IP アドレスにシステムが関連付けることができるものに関する情報が提供されます。地理情報データを、アクセスコントロールルールとして使用することができます。位置情報の詳細を表示するには、GeoDB をインストールする必要があります。	はい	いいえ (No)

パッチおよび他のマイナーな更新はアンインストールできますが、VDB、GeoDB、または侵入ルールに対するメジャーな更新をアンインストールしたり、前のバージョンに戻したりすることはできないことに注意してください。新しいメジャーバージョンに更新後に、古いバージョンに戻す必要がある場合は、Cisco TAC に連絡してください。

ソフトウェアアップデートの実行

ライセンス：任意

更新するには、いくつかの基本的な手順があります。最初にリリースノート参照し、必要な更新前のタスクをすべて完了することで更新の準備を整えておく必要があります。次に、更新

を開始できます。更新が成功したことを確認する必要があります。最後に、更新後の必要な手順を完了させます。

更新の計画

ライセンス：任意

更新を開始する前に、リリース ノートをよく読んで理解する必要があります。リリース ノートはサポート サイトからダウンロードすることができます。リリース ノートには、新しい機能、および既知の問題と解決済みの問題について説明されています。また、リリース ノートには前提条件、警告、および特別なインストールおよびアンインストールの手順についての重要な情報が含まれています。

以降の項では、更新の計画で検討しなければならない要素の概要を提供します。

ソフトウェア バージョンの要件

正しいソフトウェアバージョンを実行していることを確認する必要があります。リリース ノートには必要なバージョンが示されています。古いバージョンを実行している場合は、サポート サイトから更新を取得することができます。

時間とディスク領域の要件

十分な空きディスク領域があることを確認し、更新のために十分な時間を確保しておく必要があります。リリース ノートには、領域と時間の要件が示されています。

設定のバックアップのガイドライン

メジャーな更新を開始する前に、ASA FirePOWER モジュールに存在するバックアップを外部の場所にコピーしてから、それらのバックアップを削除することをお勧めします。更新のタイプに関係なく、現行の設定データを外部の場所にバックアップしておく必要もあります。[バックアップと復元の使用](#)を参照してください。

更新を実行するタイミング

更新プロセスはトラフィックの検査およびトラフィックフローに影響を与えることがあり、更新中は Data Correlator が無効になるため、保守時間帯や中断の影響が最も少ない時間に更新を行うことを推奨しています。

更新プロセスについて

ライセンス：任意

ASA FirePOWER モジュールの更新には、ASA FirePOWER モジュール インターフェイスを使用します。

[Product Updates] ページ ([Configuration] > [ASA FirePOWER Configuration] > [Updates]) には、それぞれの更新のバージョン、およびその更新が生成された日時が表示されます。また、ソフトウェアの再起動が更新の一環として必要です。サポートから取得した更新をアップロードす

ると、更新がページに示されます。パッチ機能および機能の更新のアンインストーラも表示されます。[ソフトウェア アップデートのアンインストール \(8 ページ\)](#) を参照してください。このページでは、VDB の更新もリストできます。



ヒント パッチおよび機能の更新では、自動更新機能を利用することができます。[ソフトウェア アップデートの自動化](#) を参照してください。

トラフィック フローとインスペクション

更新をインストールまたはアンインストールすると、次の機能に影響を与えることがあります。

- トラフィックのインスペクション (アプリケーションおよびユーザの認識とコントロール、URL フィルタリング、セキュリティ インテリジェンス フィルタリング、侵入検出と防御、接続のロギングなど)
- トラフィック フロー

Data Correlator は、システムの更新中は動作しません。更新が完了すると再開します。

ネットワーク トラフィックの中断方法と期間は、ASA FirePOWER モジュールの設定および展開方法、更新により ASA FirePOWER モジュールが再起動されるかどうかによって異なります。特定の更新に対してネットワーク トラフィックがいつ、どのように影響を受けるかについての情報は、リリース ノートを参照してください。

更新時の ASA FirePOWER モジュールの使用

更新のタイプに関係なく、更新のモニタ以外のタスクを実行するために ASA FirePOWER モジュールを使用しないでください。

メジャーな更新中にユーザが ASA FirePOWER モジュールを使用するのを防ぎ、メジャーな更新の進捗を簡単にモニタできるようにするために、ASA FirePOWER モジュールのインターフェイスが合理化されています。マイナーな更新の進捗は、タスク キュー ([Monitoring] > [ASA FirePOWER Monitoring] > [Task Status]) でモニタできます。マイナーな更新中に ASA FirePOWER モジュールを使用することは禁止されていませんが、シスコでは推奨していません。

マイナーな更新の場合でも、ASA FirePOWER モジュールが更新プロセス中に使用できなくなることがあります。これは想定されている動作です。その場合は、ASA FirePOWER モジュールに再度アクセスできるようになるまで待機します。まだ更新が実行中の場合は、更新が完了するまで ASA FirePOWER モジュールを使用しないでください。更新中は、ASA FirePOWER モジュールが 2 回再起動されることがありますが、これも想定されている動作です。



注意 更新で問題が発生した場合には (たとえば更新が失敗した、または [Update Status] ページの手動更新に進捗が表示されないなど)、更新を再開しないでください。代わりに、サポートに連絡してください。

更新後

リリースノートに記載されている更新後のタスクをすべて完了し、展開が正常に実行されていることを確認する**必要があります**。

最も重要な更新後作業は、アクセスコントロールポリシーの再適用です。アクセスコントロールポリシーを適用すると、トラフィックフローと処理が一時的に停止することがあります。また、いくつかのパケットが検査されない場合があります。[設定変更の導入](#)を参照してください。

また、次の作業を実行する必要があります。

- 更新が正常に終了したことを確認する
- 必要に応じて侵入ルール、VDB、および GeoDB を更新する
- リリースノートの情報に基づいて、必要な設定変更を行う
- リリースノートに記載されている、更新後の追加タスクを実行する

ASA FirePOWER モジュール ソフトウェアの更新

ライセンス：任意

更新のタイプ、および ASA FirePOWER モジュールがインターネットにアクセスできるかどうかによって、ASA FirePOWER モジュール ソフトウェアを次のいずれかの方法で更新できます。

- ASA FirePOWER モジュールがインターネットにアクセスできる場合は、サポートサイトから直接更新を取得できます。このオプションは、メジャーな更新ではサポートされていません。
- サポートサイトから更新を手動でダウンロードして、ASA FirePOWER モジュールにアップロードすることもできます。ASA FirePOWER モジュールがインターネットにアクセスできない場合、またはメジャーな更新を実行している場合は、このオプションを選択します。

メジャーな更新の場合は、ASA FirePOWER モジュールを更新すると、以前の更新のアンインストールが削除されます。

- ASA FirePOWER モジュール ソフトウェアを更新するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 リリースノートを読んで、更新前の必要なタスクを完了します。

更新前のタスクには、ASA FirePOWER モジュールが Cisco ソフトウェアの正しいバージョンを実行している、更新を実行するための十分な空きディスク容量がある、更新を実行するために十分な時間を確保している、設定データをバックアップしているなどの確認が含まれます。

ステップ 2 更新をアップロードします。更新のタイプ、および ASA FirePOWER モジュールがインターネットにアクセスできるかどうかに応じて、2つのオプションがあります。

- メジャーな更新を除くすべての更新で、ASA FirePOWER モジュールがインターネットにアクセスできる場合は、[Configuration]>[ASA FirePOWER Configuration]>[Updates] の順に選択し、[Download Updates] をクリックして、次のいずれかのサポート サイトで最新の更新を確認します。

- Sourcefire : (<https://support.sourcefire.com/>)

- シスコ :

- (<http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html>)

- メジャーな更新の場合、または ASA FirePOWER モジュールがインターネットにアクセスできない場合は、最初に次のいずれかのサポート サイトから更新を手動でダウンロードする必要があります。

- Sourcefire : (<https://support.sourcefire.com/>)

- シスコ : (<http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html>)

- [Configuration]>[ASA FirePOWER Configuration]>[Updates] の順に選択し、[Upload Update] をクリックします。[Choose File] をクリックして、その更新に移動して選択し、[Upload] をクリックします。

(注) サポートサイトから、手動でまたは [Product Updates] タブで [Download Updates] をクリックして、更新を直接ダウンロードします。電子メールで更新ファイルを転送すると、ファイルが破損することがあります。

更新がアップロードされます。

ステップ 3 [Monitoring]>[ASA FirePOWER Monitoring]>[Task Status] の順に選択して、タスク キューを表示し、進行中のジョブがないことを確認します。

更新を開始したときに実行されているタスクは停止され、再開できません。更新が完了した後で、タスク キューから手動で削除する必要があります。タスク キューは 10 秒ごとに自動的にリフレッシュされます。更新を始める前に、長時間実行しているタスクが完了するまで待機する必要があります。

ステップ 4 [Configuration]>[ASA FirePOWER Configuration]>[Updates] の順に選択します。

[Product Updates] ページが表示されます。

ステップ 5 アップロードした更新の横にあるインストール アイコンをクリックします。

更新プロセスが開始されます。更新を監視する方法は、更新がメジャーかマイナーかによって異なります。更新のタイプを判断するには、[表 1 : ASA FirePOWER モジュールの更新タイプ \(2 ページ\)](#) の表およびリリース ノートを参照してください。

- マイナーな更新の場合、更新の進捗は、タスク キュー ([Monitoring]>[ASA FirePOWER]>[Monitoring]>[Task Status]) でモニタできます。

- メジャーな更新については、タスク キューで更新の進捗の監視を開始できます。ただし、ASA FirePOWER モジュールによる更新前の必要なチェックが完了すると、ユーザはモジュール インターフェイスからロックアウトされます。再度アクセスすると、[Upgrade Status] ページが表示されます。詳細については、[メジャーな更新のステータスの監視 \(7 ページ\)](#) を参照してください。

注意 更新のタイプに関係なく、更新が完了するまで、更新のモニタ以外のタスクを実行するために ASA FirePOWER モジュールを使用しないでください。必要な場合、ASA FirePOWER モジュールは再起動します。詳細は、[更新時の ASA FirePOWER モジュールの使用 \(4 ページ\)](#) を参照してください。

ステップ 6 更新が完了したら、ASA FirePOWER モジュール インターフェイスにアクセスしてページを更新します。そうしない場合、インターフェイスが予期しない動作を示すことがあります。メジャーな更新の後、最初にインターフェイスにアクセスしたユーザに対してエンドユーザ ライセンス契約 (EULA) が表示されることがあります。EULA を確認して承認し、処理を続行します。

ステップ 7 サポート サイトで利用可能なルール アップデートが、ご使用の ASA FirePOWER モジュールのルールより新しい場合は、新しいルールをインポートします。

詳細については、[ルール更新とローカルルール ファイルのインポート \(10 ページ\)](#) を参照してください。

ステップ 8 アクセス コントロール ポリシーを再適用します。

アクセス コントロール ポリシーを適用すると、トラフィック フローと処理が一時的に停止することがあります。また、いくつかのパケットが検査されない場合があります。詳細については、[設定変更の導入](#) を参照してください。

ステップ 9 サポート サイトにある利用可能な VDB が、最後にインストールした VDB よりも新しい場合は、その最新の VDB をインストールします。

VDB の更新をインストールすると、トラフィック フローと処理が一時的に停止することがあります。また、いくつかのパケットが検査されない場合があります。詳細については、[脆弱性データベースの更新 \(9 ページ\)](#) を参照してください。

メジャーな更新のステータスの監視

ライセンス : 任意

メジャーな更新では、ASA FirePOWER モジュール提供の簡潔なインターフェイスを使用して、更新プロセスを簡単にモニタできます。簡潔なインターフェイスでは、更新のモニタリング以外のタスクを実行するために ASA FirePOWER モジュールを使用することもできません。更新の進捗のモニタリングは、タスク キューで開始できます ([Monitoring] > [ASA FirePOWER Monitoring] > [Task Status])。ただし、ASA FirePOWER モジュールによる更新前の必要なチェックが完了すると、簡潔な更新ページが表示されるまで、ユーザはユーザインターフェイスからロックアウトされます。

簡潔なインターフェイスには、更新前のバージョン、更新後のバージョン、および更新を開始してから経過時間が表示されます。また進捗バーが表示され、実行中のスクリプトに関する詳細が示されます。



ヒント 更新ログを表示するには、[show log for current script] をクリックします。ログをもう一度非表示にするには、[hide log for current script] をクリックします。

何らかの理由で更新が失敗すると、ページにはエラーメッセージが表示され、失敗した日時、更新が失敗したときに実行していたスクリプト、およびサポートへ連絡するための方法が示されます。更新を再開しないでください。



注意 更新で他の問題（ページの手動更新で長時間経過しても進捗が表示されない、など）が生じた場合も、更新を再開しないでください。代わりに、サポートへ連絡してください。

更新が完了すると、ASA FirePOWER モジュールは正常終了のメッセージを表示して再起動します。ASA FirePOWER モジュールの再起動が終了したら、更新後の必要な手順をすべて実行します。

ソフトウェアアップデートのアンインストール

ライセンス：任意

パッチまたは機能の更新を適用すると、更新プロセスにより、更新を削除できるアンインストールが作成されます。

更新をアンインストールした場合、結果として保持される Cisco ソフトウェアのバージョンは更新パスによって異なります。たとえば、バージョン 5.0 からバージョン 5.0.0.2 へ直接更新した場合のシナリオについて考えてみます。バージョン 5.0.0.2 のパッチをアンインストールすると、バージョン 5.0.0.1 の更新をインストールしたことがなくても、バージョン 5.0.0.1 が結果として生成されます。更新をアンインストールした場合に結果として保持される Cisco ソフトウェアのバージョンの詳細については、リリース ノートを参照してください。



(注) アンインストールは、メジャーな更新ではサポートされていません。新しいメジャーバージョンに更新してから古いバージョンに戻すことが必要になった場合は、サポートに連絡してください。

トラフィック フローとインスペクション

更新をアンインストールすると、トラフィック インスペクションとトラフィック フローが影響を受ける可能性があります。特定の更新に対してネットワークトラフィックがいつ、どのように影響を受けるかについての情報は、リリース ノートを参照してください。

アンインストール後

更新をアンインストールしたら、アンインストールが成功したことを確認します。それぞれの更新に特定の情報については、リリース ノートを参照してください。

パッチまたは機能更新のアンインストール方法：

ステップ 1 [Configuration] > [ASA FirePOWER Configuration] > [Updates] の順に選択します。

[Product Updates] ページが表示されます。

ステップ 2 削除する更新のアンインストーラの隣にあるインストール アイコンをクリックします。

プロンプトが表示されたら、更新をアンインストールすることを確認して、ASA FirePOWER モジュールを再起動します。

アンインストールプロセスが開始されます。その進捗は、タスク キュー ([Monitoring] > [ASA FirePOWER Monitoring] > [Task Status]) でモニタできます。

注意 アンインストールが完了し、必要に応じて、ASA FirePOWER モジュールを再起動するまでタスクを実行するために ASA FirePOWER モジュール インターフェイスを使用しないでください。詳細については、[更新プロセスについて \(3 ページ\)](#) を参照してください。

ステップ 3 ページを更新します。更新しないと、インターフェイスが予期しない動作を示すことがあります。

脆弱性データベースの更新

ライセンス：任意

シスコ脆弱性データベース (VDB) は、ホストが影響を受ける可能性がある既知の脆弱性のデータベースです。シスコ脆弱性調査チーム (VRT) は、VDB を定期的に更新します。VDB を更新するには、[Product Updates] ページを使用します。



(注) 検出の更新とともに VDB 更新をインストールすると、トラフィック フローと処理が一時的に停止し、いくつかのパケットが検査なしで通過する場合があります。システムのダウンタイムの影響を最小限に抑えるために、システムの使用率が低い時間に合わせて更新をスケジューリングすることもできます。



(注) VDB の更新完了後に、古くなったすべてのアクセス コントロール ポリシーを再適用します。VDB のインストールまたはアクセス コントロール ポリシーの再適用を行うと、トラフィック フローと処理が一時的に停止することがあり、また、いくつかのパケットが検査されずに通過する場合がありますので注意してください。詳細については、[設定変更の導入](#)を参照してください。

この項では、手動による VDB 更新を計画および実行する方法について説明します。

脆弱性データベースを更新する方法：

ステップ1 更新用の VDB 更新アドバイザリ テキストを読みます。

このアドバイザリ テキストには、更新で VDB に加えられた変更に関する情報が含まれています。

ステップ2 [Configuration] > [ASA FirePOWER Configuration] > [Updates] の順に選択します。

[Product Updates] ページが表示されます。

ステップ3 更新をアップロードします。

- ASA FirePOWER モジュールがインターネットにアクセスできる場合は、[Download Updates] をクリックして、次のいずれかのサポート サイトで最新の更新を確認します。

- Sourcefire : (<https://support.sourcefire.com/>)

- シスコ : (<http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html>)

- ASA FirePOWER モジュールがインターネットにアクセスできない場合は、次のいずれかのサポート サイトから更新を手動でダウンロードして [Upload Update] をクリックします。[Choose File] をクリックして、その更新に移動して選択し、[Upload] をクリックします。

- Sourcefire : (<https://support.sourcefire.com/>)

- シスコ : (<http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html>)

(注) サポート サイトから、手動でまたは [Download Updates] をクリックして、更新を直接ダウンロードします。電子メールで更新ファイルを転送すると、ファイルが破損することがあります。

更新がアップロードされます。

ステップ4 VDB 更新の隣にあるインストール アイコンをクリックします。

[Install Update] ページが表示されます。

ステップ5 [Install] をクリックします。

更新プロセスが開始されます。更新の進捗は、タスク キュー ([Monitoring] > [ASA FirePOWER Monitoring] > [Task Status]) でモニタできます。

注意 更新で問題が発生した場合には (たとえばタスク キューに更新が失敗したことが示されているなど)、更新を再開しないでください。代わりに、サポートへ連絡してください。

VDB 更新を有効にするには、古くなったすべてのアクセス コントロール ポリシーを再適用する必要があります。「[設定変更の導入](#)」を参照してください。

ルール更新とローカルルール ファイルのインポート

ライセンス : 任意

新しい脆弱性に関する情報が判明すると、シスコ脆弱性調査チーム（VRT）からルール更新がリリースされます。これは、最初に ASA FirePOWER モジュールにインポートしてから、影響を受けるアクセスコントロール、ネットワーク解析、および侵入ポリシーを適用することで実装できます。

ルール更新は累積的なので、シスコでは常に最新の更新をインポートすることを推奨しています。現在インストールされているルールのバージョンに一致するルール更新、またはそれより前のバージョンのルール更新をインポートすることはできません。



- (注) ルール更新には新しいバイナリが含まれている場合があるので、これらのダウンロードおよびインストールのプロセスが、自身のセキュリティポリシーに適合していることを確認してください。また、ルールの更新は量が多くなることもあるため、ルールのインポートはネットワークの使用量が少ないときに行うようにしてください。

ルール更新では、次のものを提供します。

1. **新規または変更されたルールおよびルールの状態**：ルール更新は、新規または更新された侵入およびプリプロセッサのルールを提供します。新しいルールについては、ルールの状態がそれぞれのシステム提供の侵入ポリシーで異なる場合があります。たとえば、Security over Connectivity の侵入ポリシーでは新しいルールが有効になっており、Connectivity over Security の侵入ポリシーでは無効になっていることがあります。ルールの更新では、既存のルールのデフォルト状態が変更されたり、既存のルールそのものが削除されることもあります。
2. **新しいルール カテゴリ**：ルール更新には、常に追加される新しいルール カテゴリが含まれている場合があります。
3. **変更されたプリプロセッサおよび詳細設定**：ルール更新は、システム提供の侵入ポリシーの詳細設定および、システム提供のネットワーク解析ポリシーのプリプロセッサ設定を変更することがあります。また、アクセス コントロール ポリシーにおける高度な前処理やパフォーマンス オプションに関するデフォルト値を更新することもあります。
4. **新規の変数および変数の変更**：ルール更新は、既存のデフォルト変数のデフォルト値を変更することがありますが、ユーザによる変更は上書きされません。新しい変数は常に追加されています。

ルール更新でポリシーが変更されるタイミングの概要

ルール更新は、すべてのアクセス コントロール ポリシーと同様に、システム提供およびカスタムのネットワーク解析ポリシーの両方に影響を与えます。

- **システム提供**：システムが提供するネットワーク解析および侵入ポリシーへの変更は、その他のアクセスコントロールの詳細設定と同様に、更新後にポリシーを再適用すると自動的に有効になります。
- **カスタム**：カスタムのネットワーク解析および侵入ポリシーは、いずれもシステム提供のポリシーをベースとして使用するか、ポリシー チェーン中でのイベント ベースとして使

用しているため、ルール更新がカスタムのネットワーク解析および侵入ポリシーにも影響を与えることがあります。ただし、ルール更新によるこれらの自動的な変更が行われなないようにすることができます。これにより、ルール更新のインポートとは関係ないスケジュールで、システムによって提供される基本ポリシーを手動で更新できます。ユーザーによる選択とは関係なく（カスタムポリシーごとの実装）システム提供のポリシーに対する更新では、ユーザーがカスタマイズした設定は上書き**されません**。詳細については、[ルールアップデートによるシステム付属基本ポリシーの変更を許可する](#)を参照してください。

ルールの更新をインポートすると、ネットワーク解析および侵入ポリシーのキャッシュされていた変更は、すべて廃棄されることに注意してください。便宜のために、[Rule Updates] ページには、キャッシュされている変更があるポリシーがリストされます。詳細については、[競合の解決とポリシー変更の確定](#)を参照してください。

ポリシーの再適用

ルール更新による変更を反映させるには、変更されたすべてのポリシーを再適用する必要があります。ルール更新をインポートする際には、侵入またはアクセス コントロール ポリシーを自動的に再適用するように、システムを設定できます。これは、ルールの更新によってシステムにより提供される基本ポリシーが変更されることを許可する場合に特に役立ちます。

- アクセス コントロール ポリシーを再適用すると、関連付けられた SSL、ネットワーク解析、ファイルのポリシーも再適用されますが、侵入ポリシーは再適用**されません**。また、変更された詳細設定のデフォルト値もすべて更新されます。ネットワーク解析のポリシーは個別に適用できないので、ネットワーク解析ポリシーのプリプロセッサ設定を更新するには、アクセス コントロール ポリシーの再適用が**必要**です。
- 侵入ポリシーを再適用すると、ルールおよびその他の変更された侵入ポリシーの設定も更新することができます。侵入ポリシーの再適用はアクセス コントロール ポリシーとあわせて行うこともできますが、その他のアクセスコントロールの設定は更新せずに、侵入ポリシーの適用で侵入ルールだけを更新することもできます。

ルール更新に共有のオブジェクトルールが含まれている場合は、インポート後に初めてアクセス コントロールまたは侵入ポリシーを適用したときに、トラフィック フローと処理が一時的に停止し、いくつかのパケットが検査されずに通過することがあります。アクセスコントロールおよび侵入ポリシーの適用における、要件、その他の影響、および推奨事項などを含めた詳細については、[設定変更の導入](#)を参照してください。

ワンタイム ルール更新の使用

ライセンス：任意

ワンタイム ルール更新では次の 2 つの方法を使用することができます。

- 手動ワンタイム ルール更新の使用：サポート サイトから手動でルール更新をダウンロードし、手動でインストールします。
- 自動ワンタイム ルール更新の使用：自動機能を使用し、サポート サイトで新しいルール更新を検索してアップロードします。

手動によるワンタイム ルール更新の使用

ライセンス：任意

次の手順では、新しいルール更新を手動でインポートする方法について説明します。この手順は、ASA FirePOWER モジュールがインターネットにアクセスできない場合に便利です。

手動でルール更新をインポートするには、次の手順を実行します。

ステップ 1 インターネットにアクセスできるコンピュータから、次のサイトのいずれかへアクセスします。

- Sourcefire : (<https://support.sourcefire.com/>)
- シスコ : (<http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html>)

ステップ 2 [Download] をクリックし、[Rules] をクリックします。

ステップ 3 最新のルール更新へ移動します。

ルール更新は累積的です。現在インストールされているルールのバージョンに一致するルール更新、またはそれより前のバージョンのルール更新をインポートすることはできません。

ステップ 4 ダウンロードするルール更新ファイルをクリックし、そのファイルをコンピュータに保存します。

ステップ 5 [Configuration] > [ASA FirePOWER Configuration] > [Updates] の順に選択し、[Rule Updates] タブを選択します。

[Rule Updates] ページが表示されます。

ヒント [Rule Editor] ページ ([Configuration] > [ASA FirePOWER Configuration] > [Policies] > [Intrusion Policy] > [Rule Editor]) で、[Import Rules] をクリックすることもできます。

ステップ 6 オプションで [Delete All Local Rules] をクリックし、[OK] をクリックして、作成した、または削除されたフォルダにインポートしたすべてのユーザ定義ルールを移動します。

ステップ 7 [アップロードおよびインストールするルール アップデートまたはテキスト ルール ファイル (Rule Update or text rule file to upload and install)] を選択し、[ファイルの選択 (Choose File)] をクリックして、ルール更新ファイルに移動して選択します。

ステップ 8 オプションで、更新の完了後にポリシーを再適用します。

- [Reapply intrusion policies after the rule update import completes] を選択すると、侵入ポリシーが自動的に再適用されます。このオプションを選択するのは、その他のアクセスコントロールのユーザ設定は更新せずに、ルールおよびその他の変更された侵入ポリシーの設定を更新する場合だけです。このオプションの選択が**必要となる**のはアクセスコントロールポリシーとあわせて侵入ポリシーを再適用する場合であり、そうしたケースではアクセスコントロールポリシーを再適用しても完全には適用されません。
- [Reapply access control policies after the rule update import completes] を選択すると、アクセスコントロールポリシーとその関連のSSL、ネットワーク解析、ファイルのポリシーも自動的に再適用されますが、侵入ポリシーは再適用されません。このオプションを選択すると、変更されたアクセスコントロールの詳細設定のデフォルト値もすべて更新されます。ネットワーク解析のポリシーは親となるア

アクセス コントロール ポリシーと個別には適用できないので、ネットワーク解析ポリシーのプリプロセッサ設定を更新するには、アクセス コントロール ポリシーの再適用が**必要**です。

ステップ 9 [Import] をクリックします。

システムはルール更新をインストールし、[Rule Update Log] 詳細ビューを表示します。「[Rule Update Import Log] 詳細ビューについて (21 ページ)」を参照してください。システムは、前のステップで指定したポリシーも適用します。「設定変更の導入」および「侵入ポリシーの適用」を参照してください。

(注) ルール更新のインストール中にエラーメッセージが表示された場合は、サポートに連絡してください。

自動のワнтаイム ルール更新の使用

ライセンス：任意

次の手順では、サポートサイトに自動で接続して、新しいルール更新をインポートする方法について説明します。この手順は、ASA FirePOWER モジュールがインターネットにアクセスできる場合にのみ使用できます。

自動でルール更新をインポートする方法：

ステップ 1 [Configuration] > [ASA FirePOWER Configuration] > [Updates] の順に選択し、[Rule Updates] タブを選択します。

[Rule Updates] ページが表示されます。

ヒント [Rule Editor] ページ ([Configuration] > [ASA FirePOWER Configuration] > [Policies] > [Intrusion Policy] > [Rule Editor]) で、[Import Rules] をクリックすることもできます。

ステップ 2 オプションで [Delete All Local Rules] をクリックし、[OK] をクリックして、作成した、または削除されたフォルダにインポートしたすべてのユーザ定義ルールを移動します。

ステップ 3 [Download new Rule Update from the Support Site] を選択します。

ステップ 4 オプションで、更新の完了後にポリシーを再適用します。

- [Reapply intrusion policies after the rule update import completes] を選択すると、侵入ポリシーが自動的に再適用されます。このオプションを選択するのは、その他のアクセスコントロールのユーザ設定は更新せずに、ルールおよびその他の変更された侵入ポリシーの設定を更新する場合だけです。このオプションの選択が**必要となる**のはアクセスコントロールポリシーとあわせて侵入ポリシーを再適用する場合であり、そうしたケースではアクセスコントロールポリシーを再適用しても完全には適用されません。
- [Reapply access control policies after the rule update import completes] を選択すると、アクセスコントロールポリシー、ネットワーク解析ポリシー、ファイルポリシーは自動的に再適用されますが、侵入ポリシーは再適用されません。このオプションを選択すると、変更されたアクセスコントロールの詳細設定のデフォルト値もすべて更新されます。ネットワーク解析のポリシーは親となるアクセスコントロール

ルールポリシーと個別には適用できないので、ネットワーク解析ポリシーのプリプロセッサ設定を更新するには、アクセスコントロールポリシーの再適用が必要です。

ステップ 5 [Import] をクリックします。

ルール更新がインストールされ、[Rule Update Log] 詳細ビューが表示されます。[\[Rule Update Import Log\] 詳細ビューについて \(21 ページ\)](#) を参照してください。システムは、前のステップで指定したポリシーも適用します。「[設定変更の導入](#)」および「[侵入ポリシーの適用](#)」を参照してください。

(注) ルール更新のインストール中にエラーメッセージが表示された場合は、サポートに連絡してください。

再帰的なルール更新の使用

ライセンス：任意

[ルールのアップデート (Rule Updates)] ページを使用して、ルール更新を日次、週次、または月次ベースでインポートすることができます。

ルール更新のインポートにおける適用可能なサブタスクは、ダウンロード、インストール、ベースポリシーの更新、およびポリシーの再適用の順序で生じます。1つのサブタスクが完了すると、次のサブタスクが開始されます。適用できるのは、再帰的なインポートが設定されている ASA FirePOWER モジュールによって以前に適用されたポリシーだけであることに注意してください。

再帰的なルール更新をスケジュールする方法：

ステップ 1 [Configuration] > [ASA FirePOWER Configuration] > [Updates] の順に選択し、[Rule Updates] タブを選択します。

[Rule Updates] ページが表示されます。

ヒント [Rule Editor] ページ ([Configuration] > [ASA FirePOWER Configuration] > [Policies] > [Intrusion Policy] > [Rule Editor]) で、[Import Rules] をクリックすることもできます。

ステップ 2 オプションで [Delete All Local Rules] をクリックし、[OK] をクリックして、作成した、または削除されたフォルダにインポートしたすべてのユーザ定義ルールを移動します。

ステップ 3 [Enable Recurring Rule Update Imports] を選択します。

ページが拡張され、再帰的なインポートを設定するためのオプションが表示されます。[Recurring Rule Update Imports] セクション見出しの下に、インポートステータスのメッセージが表示されます。設定を保存すると、再帰的なインポートが有効になります。

ヒント 再帰的なインポートを無効にするには、[Enable Recurring Rule Update Imports] チェックボックスをオフにして [Save] をクリックします。

ステップ 4 [Import Frequency] フィールドで、ドロップダウンリストから [Daily]、[Weekly]、または [Monthly] を選択します。

週次または月次のインポート間隔を選択した場合は、表示されるドロップダウンリストを使用して、ルール更新をインポートする曜日または月の日を選択します。選択項目をクリックするか、または選択項目の最初の文字または数字を 1 回以上入力して Enter を押すことで、再帰タスクのドロップダウンリストから選択できます。

ステップ 5 [Import Frequency] フィールドで、再帰的なルール更新のインポートを開始するタイミングを指定します。

ステップ 6 オプションで、更新の完了後にポリシーを再適用します。

- [Reapply intrusion policies after the rule update import completes] を選択すると、侵入ポリシーが自動的に再適用されます。このオプションを選択するのは、その他のアクセスコントロールのユーザ設定は更新せずに、ルールおよびその他の変更された侵入ポリシーの設定を更新する場合だけです。このオプションの選択が**必要となる**のはアクセスコントロールポリシーとあわせて侵入ポリシーを再適用する場合であり、そうしたケースではアクセスコントロールポリシーを再適用しても完全には適用されません。
- [Reapply access control policies after the rule update import completes] を選択すると、アクセスコントロールポリシーとその関連の SSL、ネットワーク解析、ファイルのポリシーも自動的に再適用されますが、侵入ポリシーは再適用されません。このオプションを選択すると、変更されたアクセスコントロールの詳細設定のデフォルト値もすべて更新されます。ネットワーク解析のポリシーは親となるアクセスコントロールポリシーと個別には適用できないので、ネットワーク解析ポリシーのプリプロセッサ設定を更新するには、アクセスコントロールポリシーの再適用が**必要です**。

ステップ 7 [Save] をクリックし、設定を使用した再帰的なルール更新のインポートを有効にします。

[ルールアップデートの再帰的なインポート (Recurring Rule Update Imports)] セクションの見出しの下のステータスメッセージが変わり、ルールの更新がまだ実行されていないことが示されます。スケジュールされた時間になるとシステムは、前のステップで指定したルール更新をインストールしてポリシーを適用します。「[設定変更の導入](#)」および「[侵入ポリシーの適用](#)」を参照してください。

インポートの前またはインポート中にも、ログオフしたり、他のタスクを実行したりできます。インポート中にアクセスした場合は、[Rule Update Log] に赤色のステータスアイコン (🔴) が表示され、[Rule Update Log] 詳細ビューに表示されるメッセージを確認できます。ルールの更新のサイズと内容によっては、ステータスメッセージが表示されるまでに数分かかることがあります。詳細については、[ルール更新ログの表示 \(18 ページ\)](#) を参照してください。

(注) ルール更新のインストール中にエラーメッセージが表示された場合は、サポートに連絡してください。

ローカルルール ファイルのインポート

ライセンス：任意

ローカルルールは、ASCII または UTF-8 エンコーディングによるプレーンテキストファイルとしてローカルマシンからインポートするカスタム標準テキストルールです。Snort ユーザマニュアル (<http://www.snort.org> で入手可能) の指示に従って、ローカルルールを作成できます。

ローカル ルールのインポートについて、次の点に注意してください。

- テキストファイル名には英数字とスペースを使用できますが、下線 (_)、ピリオド (.)、ダッシュ (-) 以外の特殊文字は使用できません。
- ジェネレータ ID (GID) を指定する必要はありません。GID を指定する場合、標準テキストルールには GID 1、センシティブ データ ルールには 138 のみ指定できます。
- 初めてルールをインポートするときには、Snort ID (SID) またはリビジョン番号を指定しないでください。これにより、削除されたルールを含む、他のルールの SID との競合が回避されます。

システムはルールに対して、1000000 以上の次に使用できるカスタムルール SID、およびリビジョン番号の 1 を自動的に割り当てます。

- 以前にインポートしたローカルルールの更新バージョンをインポートする場合には、システムによって割り当てられた SID、および現在のリビジョン番号よりも大きいリビジョン番号を含める必要があります。

現行のローカル ルールのリビジョン番号を表示するには、[Rule Editor] ページ ([Policies] > [Intrusion] > [Rule Editor]) を表示し、ローカルルールのカテゴリをクリックしてフォルダを展開し、ルールの隣にある [Edit] をクリックします。

- システムによって割り当てられた SID、および現行のリビジョン番号よりも大きいリビジョン番号を使用してルールをインポートして削除したローカルルールは、元に戻すことができます。ローカルルールを削除すると、システムは自動的にリビジョン番号を増やすことに注意してください。これは、ローカルルールを元に戻すための方法です。

削除されたローカル ルールのリビジョン番号を表示するには、[Rule Editor] ページ ([Policies] > [Intrusion Policy] > [Rule Editor]) を表示し、削除されたルール カテゴリをクリックしてフォルダを展開し、ルールの隣にある [Edit] をクリックします。

- 2147483647 よりも大きい SID を持つルールが含まれているルール ファイルはインポートできません。この場合、インポートが失敗します。
- 64 文字を超える送信元または宛先のポートのリストが含まれているルールをインポートすると、そのインポートは失敗します。
- システムは常に、ユーザがインポートするローカルルールを無効なルール状態に設定します。これらを侵入ポリシーで使用するには、その前に手動でローカルルールの状態を設定する必要があります。詳細については、「[ルール状態の設定](#)」を参照してください。
- ファイル内のルールに、エスケープ文字が含まれていないことを確認する必要があります。
- ルールインポータでは、すべてのカスタムルールを ASCII または UTF-8 エンコードでインポートする必要があります。
- インポートされたすべてのローカルルールは、ローカルルール カテゴリに自動的に保存されます。

- 削除されたすべてのローカルルールは、ローカルルールカテゴリから、削除されたルールカテゴリへ移動されます。
- システムは、単一のポンド文字 (#) で始まるローカルルールをインポートします。
- また、二重のポンド文字 (##) で始まるローカルルールは無視し、インポートしません。
- 侵入ポリシーで、侵入イベントのしきい値機能と組み合わせて非推奨の **threshold** キーワードを使用しているローカルルールをインポートして有効にすると、ポリシーの検証は失敗します。詳細については、「[イベントしきい値の設定](#)」を参照してください。

ローカルルール ファイルをインポートする方法：

ステップ 1 [Policies] > [Intrusion Policy] > [Rule Editor] の順に選択します。

[Rule Editor] ページが表示されます。

ステップ 2 [Import Rules] をクリックします。

[Import Rules] ページが表示されます。

ヒント [System] > [Updates] を選択して、[Rule Updates] タブを選択することもできます。

ステップ 3 [Rule Update or text rule file to upload and install] を選択して、[Choose File] をクリックし、ルールファイルにナビゲートします。この方法でアップロードされたすべてのルールは、ローカルルールカテゴリに保存されることに注意してください。

ヒント インポートできるのは、ASCII または UTF-8 エンコードのプレーンテキストファイルだけです。

ステップ 4 [Import] をクリックします。

ルールファイルがインポートされます。侵入ポリシーで、適切なルールが有効になっていることを確認してください。影響を受けるポリシーが次に適用されるまで、ルールはアクティブにはなりません。

(注) システムは、侵入ポリシーを適用するまで、インスペクションに対して新しいルールセットを使用しません。手順については、[設定変更の導入](#)を参照してください。

ルール更新ログの表示

ライセンス：任意

ASA FirePOWER モジュールは、インポートされたルール更新とローカルルールファイルごとに 1 つのレコードを生成します。

各レコードにはタイムスタンプ、ファイルをインポートしたユーザ名、およびインポートが正常に終了したか失敗したかを示すステータスアイコンが含まれています。ユーザは、インポートしたすべてのルール更新とローカルルールファイルのリストを管理したり、リストからレコードを削除したり、インポートしたすべてのルールとルール更新コンポーネントに関する詳

細レコードにアクセスすることができます。[Rule Update Log] で実行できる操作を次の表で説明します。

表 2: [ルール アップデート ログ (Rule Update Log)] のアクション

目的	操作
テーブルのカラムの内容について詳しく調べる	詳細については、[Rule Update Log] 表について (19 ページ) を参照してください。
インポート ログからインポート ファイル レコード (ファイルに含まれているすべてのオブジェクトについて削除されたレコードも含めて) を削除する	インポート ファイルでファイル名の隣にある削除アイコン (🗑️) をクリックします。 (注) ログからファイルを削除しても、インポート ファイルにインポートされているオブジェクトはいずれも削除されませんが、インポート ログ レコードのみは削除されます。
ルール更新またはローカルルール ファイルにインポートされている各オブジェクトの詳細を表示する	インポート ファイルでファイル名の隣にある表示アイコン (🔍) をクリックします。

[Rule Update Log] を表示する方法 :

ステップ 1 [Configuration] > [ASA FirePOWER Configuration] > [Updates] の順に選択し、[Rule Updates] タブを選択します。

[Rule Updates] ページが表示されます。

ヒント [Rule Editor] ページ ([Configuration] > [ASA FirePOWER Configuration] > [Policies] > [Intrusion Policy] > [Rule Editor]) で、[Import Rules] をクリックすることもできます。

ステップ 2 [Rule Update Log] をクリックします。



[Rule Update Log] ページが表示されます。このページには、インポートされた各ルール更新とローカルルール ファイルが示されています。



[Rule Update Log] 表について

ライセンス : 任意

次の表で、ユーザがインポートするルール更新およびローカルルール ファイルのリストのフィールドについて説明します。

表 3: [Rule Update Log] のフィールド

フィールド	説明
Summary	インポートファイルの名前。インポートが失敗した場合は、ファイル名の下に、失敗した理由の簡単な説明が表示されます。
Time	インポートが開始された日時。
User ID	インポートをトリガーとして使用したユーザ名。
Status	<p>インポートの状態を表します</p> <ul style="list-style-type: none"> • succeeded  • 失敗、または実行中  <p>ヒント インポート中には [Rule Update Log] ページで、正常終了しなかった、または完了していないことを示す赤いステータスアイコンが表示され、インポートが正常終了した場合のみこれが緑色のアイコンに変わります。</p>

ルール更新またはファイル名の隣にある表示アイコン () をクリックして、ルール更新またはローカルルールファイルの [Rule Update Log] 詳細ページを表示するか、または削除アイコン () をクリックして、ファイルレコード、およびファイルと一緒にインポートされたすべての詳細オブジェクトレコードを削除します。



ヒント ルール更新のインポートの進行中に示される、インポートの詳細を表示することができます。

[Rule Update Import Log] の詳細の表示

ライセンス：任意

[Rule Update Import Log] 詳細ビューには、ルール更新またはローカルルールファイルにインポートされた各オブジェクトの詳細レコードが表示されます。表示されるレコードのうち、自分のニーズに合う情報のみを含むカスタムワークフローまたはレポートを作成することもできます。

次の表では、[Rule Update Import Log] 詳細ビューで実行できる特定のアクションについて説明します。

表 4: [Rule Update Import Log] 詳細ビューのアクション

目的	操作
テーブルのカラムの内容について詳しく調べる	詳細については、 [Rule Update Import Log] 詳細ビューについて (21 ページ) を参照してください。

[Rule Update Import Log] 詳細ビューを表示する方法 :

ステップ 1 [Configuration] > [ASA FirePOWER Configuration] > [Updates] の順に選択し、[Rule Updates] タブを選択します。

[Rule Updates] ページが表示されます。

ヒント [Rule Editor] ページ ([Configuration] > [ASA FirePOWER Configuration] > [Policies] > [Intrusion Policy] > [Rule Editor]) で、[Import Rules] をクリックすることもできます。

ステップ 2 [Rule Update Log] をクリックします。

[Rule Update Log] ページが表示されます。

ステップ 3 表示する詳細レコードが含まれているファイルの隣にある表示アイコン (🔍) をクリックします。

詳細レコードのテーブルビューが表示されます。

[Rule Update Import Log] 詳細ビューについて

ライセンス : 任意

ルール更新またはローカルルールファイルにインポートされた各オブジェクトの詳細レコードを表示することができます。以下の表で、[Rule Update Log] 詳細ビューのフィールドについて説明します。

表 5: [ルールアップデートのインポートログ (Rule Update Import Log)] 詳細ビューのフィールド

フィールド	説明
Time	インポートが開始された日時。
Name	インポートされたオブジェクトの名前。ルールの場合はルールの [Message] フィールドに対応した名前、ルール更新コンポーネントの場合はコンポーネント名です。
Type	インポートされたオブジェクトのタイプで、有効な値は次のいずれかです。 <ul style="list-style-type: none"> [rule update component] (ルールパックまたはポリシーパックなどの、インポートされたコンポーネント) [rule] (新しいルールまたは更新されたルールの場合。バージョン 5.0.1 では、廃止された [update] 値の代わりにこの値が使用されます)。 [policy apply] (インポートで [Reapply intrusion policies after the Rule Update import completes] オプションが有効だった場合)

フィールド	説明
Action	<p>オブジェクトタイプについて、次のいずれかが発生していることを示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [new] (ルール用。この ASA FirePOWER モジュールにルールが最初に格納された場合) • [changed] (ルール更新コンポーネントまたはルールで、ルール更新コンポーネントが変更された場合、ルールのリビジョン番号が大きく、GID と SID が同じだった場合) • [collision] (ルール更新コンポーネントまたはルールで、既存のコンポーネントまたはルールとリビジョンの競合によりインポートがスキップされた場合) • [deleted] (ルールで、ルール更新からルールが削除された場合) • [enabled] (ルール更新の編集用。プリプロセッサ、ルール、または他の機能がシステム提供ポリシーで有効になっている場合) • [disabled] (ルール用。システム提供ポリシーでルールが無効になっている場合) • [drop] (ルール用。システム提供ポリシーでルールが [Drop] または [Generate Events] に設定されている場合) • [error] (ルール更新またはローカルルール ファイルで、インポートが失敗した場合) • [apply] (インポートで [Reapply intrusion policies after the Rule Update import completes] オプションが有効だった場合)
Default Action	<p>ルールの更新によって定義されているデフォルトのアクション。インポートされたオブジェクトのタイプが [rule] の場合、デフォルトのアクションは [Pass]、[Alert]、または [Drop] になります。インポートされた他のすべてのオブジェクトタイプには、デフォルトのアクションはありません。</p>
GID	<p>ルールのジェネレータ ID。たとえば、1 (標準テキストルール) または 3 (共有オブジェクトルール)。</p>
SID	<p>ルールの SID。</p>
Rev	<p>ルールのリビジョン番号。</p>
Policy	<p>インポートされたルールの場合、このフィールドには [All] が表示されます。これは、そのインポートされたルールがすべてのシステム提供侵入ポリシーに含まれていたことを示しています。インポートされた他のタイプのオブジェクトについては、このフィールドは空白です。</p>
Details	<p>コンポーネントまたはルールに対する一意の文字列。ルール、GID、SID、および変更されたルールの以前のリビジョン番号については、previously (GID:SID:Rev) のように表示されます。変更されていないルールについては、このフィールドは空白です。</p>
Count	<p>各レコードのカウント (1)。テーブルが制限されており、[Rule Update Log] 詳細ビューがデフォルトでルール更新レコードに制限されている場合は、テーブルビューに [Count] フィールドが表示されません。</p>

地理情報データベースについて

ライセンス：任意

シスコ地理位置情報データベース（GeoDB）は、ルーティング可能な IP アドレスに関連付けられている地理データのデータベースです。ASA FirePOWER モジュールでは、国と大陸が提供されます。システムで、検出された IP アドレスと一致する GeoDB 情報が検出された場合は、その IP アドレスに関連付けられている地理情報を表示することができます。シスコでは、GeoDB の定期的な更新を提供しています。

GeoDB を更新するには、[Geolocation Updates] ページ（[Configuration] > [ASA FirePOWER Configuration] > [Geolocation Updates]）を使用します。GeoDB の更新をアップロードすると、このページに表示されます。

インストールには通常 30 ～ 40 分かかります。GeoDB の更新は他のシステムの機能（実行中の地理情報の収集など）を中断することはありませんが、更新が完了するまでシステムのリソースを消費します。更新を計画する場合には、この点について考慮してください。

この項では、手動による GeoDB 更新を計画および実行する方法について説明します。自動更新機能を利用して GeoDB の更新をスケジュールすることもできます。詳細については、[地理情報データベースについて（23 ページ）](#)を参照してください。

地理情報データベースを更新する方法：

ステップ 1 [Configuration] > [ASA FirePOWER Configuration] > [Updates] の順に選択します。

[Product Updates] ページが表示されます。

ステップ 2 [Geolocation Updates] タブをクリックします。

[Geolocation Updates] ページが表示されます。

ステップ 3 更新をアップロードします。

ASA FirePOWER モジュールがインターネットにアクセスできる場合は、[Download and install geolocation update from the Support Site] をクリックして、以下のサポート サイトのいずれかで最新の更新を確認します。

- Sourcefire : (<https://support.sourcefire.com/>)
- シスコ : (<http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html>)
- ASA FirePOWER モジュールがインターネットにアクセスできない場合は、以下のサポート サイトのいずれかから更新を手動でダウンロードして、[Upload and install geolocation update] をクリックします。[Choose File] をクリックして、その更新に移動して選択し、[Import] をクリックします。
 - Sourcefire : (<https://support.sourcefire.com/>)
 - シスコ : (<http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html>)

(注) 手動で、または [Geolocation Updates] ページで [Download and install geolocation update from the Support Site] をクリックして、サポート サイトから更新を直接ダウンロードします。電子メールで更新ファイルを転送すると、ファイルが破損することがあります。

更新プロセスが開始されます。更新インストールの平均時間は 30 ～ 40 分です。更新の進捗は、タスクキュー ([Monitoring] > [ASA FirePOWER Monitoring] > [Task Status]) でモニタできます。

ステップ 4 更新が終了したら、[Geolocation Updates] ページに戻り、GeoDB のビルド番号が、インストールした更新と一致していることを確認します。

GeoDB を更新すると、GeoDB の以前のバージョンが上書きされ、すぐに有効になります。展開全体で GeoDB の更新が有効になるには数分かかることがありますが、更新した後にアクセス コントロール ポリシーを再適用する必要はありません。

次のタスク